

## ゆり組

### 竹馬、楽しくなってきました。

2学期に入り、みんなで竹馬に挑戦していきたい、と『竹馬タイム』を設け、みんなで乗る時間をもち始めました。これまで他の遊びが楽しかった子どもたちも竹馬に向き合っていきました。同時に、まだ不安定な乗り心地が怖い子どもたちも、たくさん手足を動かして歩けるよう、園用の竹馬にかかとをつけた『ハイヒール竹馬』を用意しました。ヒールを付けていると、「なにそれ？！」「ええー！乗ってみたい」と、興味いっぱいの子どもたち。「次私な」「ハイヒール代わって」と取り合うように楽しんで乗ります。「これやったら歩ける」とAちゃん。長い時間乗り続け、「先生、一周ぐるっと回ってきた！」と保育室と遊戯室を回遊してきたことを嬉しそうに報告してくれました。そうしてたくさん歩いているうちに、「ちょっと背伸び（つま先立ち）」をして前の棒だけで歩けるようになり、かかとのない竹馬も乗れるようになりました。

地面に大きな8の字を書いて、「ここも歩けるよ」と声をかけると、続々と子どもたちが線に沿って並んで歩きます。7人…8人…行列になって歩くことを楽しんだり、「8の字一周できた！」と嬉しそうな姿もあります。園庭に出てからは、トラックを回ったり、遠くまで歩くことに挑戦したり、築山に登ったり、ジャンプしたりケンケンしたり、もう少し高くしてみたいと思ったり…。自分でやってみたいと思うことを何度もやってみようとする姿また、すぐに乗れなくても諦めず、何度も挑戦した姿が本当にまぶしく見えました！

### ドンコか、ヌマチチブか？どっちなんだろう？

育ててきている『ヌマチチブ』が、図鑑で見ると「ヌマチチブとちょっと違う」「もしかしたら『ドンコ』かもしれない」ということに気づき、Bちゃんと先生の気づきをクラスのみんなに知らせて、インターネットの画像と、育てている魚の写真をテレビに映して考えました。「ドンコちがうか？」「ヌマチチブやろ」…どっちの思いもある中、Bちゃん「はかせに聞いたらいいいんちがう？」そこで先生が科学センターの矢延先生にメールでお尋ねすることにしました。

翌朝、登園してくると、掲示している2種類の写真を見てCちゃん「これはドンコやと思う。背中のここ（ひれ）が一緒やから。」Dちゃん。「調べてきましたよ。その魚、なわばり性があるの。1匹にしたらいいよ」とEちゃん。

その日の降園までに、矢延先生がお返事を下さいました。「その魚は…」先生が読み上げるのを（どっち…？？）と待つ空気。「ドンコで間違いありません。もう一人の先生もすぐに『ドンコ』と言われました。」おおー…という空気。つぎの日から、3匹いるドンコは、「ええと…ヌマチチブじゃなくてドンコ」と呼ばれるようになりました。

それ、出発！



坂道に挑戦！



決め手はひれ



最後まで全力！



毎日、かけっこにリレーにと思い切り力を出して、走っては並んで、また思い切り走って「もう1回勝負したい」「またやりたい」…子どもたちのパワーって本当にすごいです。リレーにも思いが入り、追われたくない、追いたいという思いが、子どもたちの走りに表れるなあと感じることが増えました。暑さや感染予防対策に気を付けながら、子どもたちがもっともっとやりたい、こんな風にしてみたいと思いながら体を動かす遊びが楽しめるようにして生活していきたいです。

夏を越えた生き物たちとのかかわりも続いている。みんなに投げかけたことで、誰かの謎が広がっていくのが面白かったです。ザリガニにもたくさんの赤ちゃんが生まれ、まだまだ不思議なことに出会えそうです。子どもたちがたくさん思いをもち、出し合っていけるようにしていきたいです。